

教科	理科	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学変化と原子・分子	34	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物質の性質が変化する現象を、粒子モデルと関連づけながら、物質の成りたちを理解させる。</li> <li>●化学変化とは物質を構成する原子の組み合わせが変化することを、実験・観察を通して理解させる。</li> <li>●原子の総量は地球上においては変わらないことを理解させる。</li> </ul>	物質の性質の変化を粒子モデルと関連づけながら、物質の成りたちや化学変化を理解している。また、それらの観察・実験などに関する技能を身につけている。	物質の性質の変化について、見通しをもって解決方法を立案して、観察・実験を行い、化学変化における性質や量の変化を見いだして論理立てて表現している。	化学変化に関する事物・現象に進んで関わり、思考・判断を粘り強く働かせるなかで、見通しをもったり振り返ったりするなど自らの学習を調整し、科学的に探究しようとしている。
生物のからだのつくりとはたらき	37	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生物の体をつくるものが細胞であることを理解させ、そのはたらきや役割、つくりなどを調べるための実験・観察の技能を習得させる。</li> <li>●生物のからだを生命活動に着目しながら、そのつくりやはたらきを共通性や多様性でとらえて理解させる。</li> </ul>	生物のからだを生命活動に着目しながら、植物・動物の細胞やからだのつくりとはたらきを理解している。また、それらの観察・実験などに関する技能を身につけている。	身近な植物や動物について、見通しをもって解決方法を立案して観察・実験を行い、生物のからだのつくりや働きについての共通性や多様性を見いだして論理立てて表現している。	生物のからだに関する事物・現象に進んで関わり、思考・判断を粘り強く働かせるなかで、見通しをもったり振り返ったりするなど自らの学習を調整し、科学的に探究しようとしている。
電気の世界	36	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電気回路を作る実験を通して、電圧と電流の量的な規則性・関係性を理解させる。</li> <li>●コイルの実験を通して、電流と磁界の関係をとらえ、直流と交流の違いを理解させる。</li> <li>●電磁気に関する現象をエネルギーに着目して、日常生活や社会との関連で探究しようとする。</li> </ul>	電磁気に関する事物・現象をエネルギーと関連付けながら、電流や磁界を理解している。また、それらの観察・実験などに関する技能を身につけている。	電磁気に関する現象について、見通しをもって解決方法を立案して観察・実験を行い、電流の性質・電流と磁界の規則性や関係性を考察し、論理立てて表現している。	電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、思考・判断を粘り強く働かせるなかで、見通しをもったり振り返ったりするなど自らの学習を調整し、科学的に探究しようとしている。
天気とその変化	33	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実験観察を通して、気象要素から大気の状態の様々な変化が天気の変化をもたらすことを理解する。</li> <li>●その大気の変化が地球規模で起こり人類の営みが気候変動をもたらそうとしていることを、科学的に探究させる。</li> </ul>	気象現象を地球上のあらゆる現象に着目しながら、天気の変化や日本の気象を理解している。また、それらの観察・実験などに関する技能を身につけている。	気象とその変化について、見通しをもって解決方法を立案して観察・実験を行い、天気の変化や日本の気象の時間的・空間的な構造を見いだして論理立てて表現している。	気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、思考・判断を粘り強く働かせるなかで、見通しをもったり振り返ったりするなど自らの学習を調整し、科学的に探究しようとしている。